

2014年日本建築学会大賞 受賞記念インタビュー

業績名：サステナブルな建築・都市の推進による地球環境問題緩和への貢献

受賞者：村上 周三（東京大学名誉教授／（一財）建築環境・省エネルギー機構理事長）

インタビュアー：田辺 新一（環境工学委員会委員長）

■インタビュー趣旨

田辺：今回村上先生は「サステナブルな建築、都市の推進による地球環境問題緩和への貢献」という業績で受賞されております。本日、その記念インタビューをさせて頂ければと考えております。担当は早稲田大学田辺が担当させて頂きます。

■インタビュー

田辺：まず始めに受賞の感想をお聞かせ下さい。

村上：大変立派な賞を頂き、大変喜んでおります。同時に恐縮しているという次第でございます。私の先輩でもまだ受賞されていない方が沢山おられておまして、申し訳ないという気持ちもございます。それからもう一つは、こういう地球環境問題に関わる分野で大賞を頂きまして、この分野の励みになれば良いかと、私の喜びのひとつでございます。

田辺：それでは、先生の受賞された業績の背景と内容についてお伺いしたいと思います。

村上：「サステナブルな建築、都市の推進による地球環境問題緩和への貢献」とございまして、地球環境問題というのは、今から20年ちょっと前から建築の分野でも大きな話題になって、その研究をしたわけでございます。当時我々は「温暖化防止」と言っていたが、「建築が何故地球環境問題の緩和に貢献できる」と言うような議論もあったぐらいで、なかなか理解が進んでいなかったんです。最近は環境工学と言いますか建築全体の最も大きな研究テーマになり、私自身、自分の研究として最後の20年で、この問題に出会うことができまして少しでも貢献できたかと思っております。この分野の研究を建築学会で推進して頂いた多くの同僚、先輩、後輩の方々に感謝している次第でございます。

田辺：最近の建築環境分野の研究や建築学会の動向などについてお考えをお聞かせ下さい。

村上：建築学会というのは、大変社会からも信用があると思っております。何故かと申しますと学術、技術、芸術と多様な分野の方がおられて、様々な意見がある。逆に言うところある階層、団体の利益とかを代表として意見を申し上げると言うような学会ではないものですから、非常に社会からの信用があると考えておまして、その良き伝統をこれからも守って頂きたいと思っております。環境工学の分野について申し上げますと、殆どは地球環境を始めと致しまして、新しいテーマがどんどん生まれて来るわけです。それに対してキャッチアップ出来るような研究者の柔軟性が必要であり、時々遅いと感じられます。もう一つは、環境工学はいかがわしいと言われる方もおられます。純粋学問としても社会的信用が得られるような学術そのものの推進も進めて頂きたいと若い方をお願いしたいと思います。

田辺：最後に次世代（特に若い世代に向けて先生からのメッセージをお聞かせ下さい。

村上：ご存じのように地球環境問題、これからの人類の存続に影響を与えるような非常に大きい問題であり、その中で建築というのは非常に大きな責任があるのです。例えば資源エネルギーの4割は建築分野で使っており、この分野は人類の存続をかけて、これからのサステイナブルな建築をどう創っていくことが非常に大きな使命です。逆に言うと非常に大事な役目を与えられたわけですから、若い世代は精一杯がんばって人類が存続できるような建築を創って頂きたいとお願ひしたいと思います。